ポイントインタビュー

岡山商工会議所の21世紀岡山特別委員会は、将来の岡山市の街づくりを展望する提言書「21世紀岡山のビジョン」をまとめた。同委員会の委員長を務める福武総一郎副会頭（ベネッセコーポレーション社長）に、ビジョンのポイントや実現に向けた課題などを聞いた。

「21世紀岡山のビジョン」をまとめた岡山商工会議所21世紀岡山特別委員会

福武総一郎委員長

民間の発想を提言

市との連携、財政も重視

―21世紀岡山のビジョンを策定した背景について。

「当会議所の各種委員会それぞれが岡山の二十一世紀を考えていたが、一九九八年六月に統一組織として21世紀岡山特別委員会を設置した。当時は岡山市長選（九九年一月）に向けての動きが出てきた時期。市民も岡山の将来について考えようと盛り上がっていた時期でもあった」

―基本理念に「人と地球をケアする国際・福祉都市おかやま」を掲げた。

「岡山には国際医療ボランティア・AMDAという国際的に認知度の高い機関がある。こうした医療や福祉、環境関連など、岡山に優位性のある機能を集約させることが大切だ。岡山空港も滑走路三千メートル化により、世界と近くなる。具体的には岡山医用工学研究所や国際救援医療センターのような研究機関、人材養成機関の設置を提案した。こうした施設を集約する場所として、西大寺の新産業ゾーンと操車場跡地の二カ所が考えられる」

―以前から提唱している路面電車の延伸、環状化実現への課題は。

「路面電車は、国際・福祉都市を目指す岡山のシンボルとなる。路面電車の整備という点だけでとらえると、道路の車線減少などの問題が出てきて、車との戦いになってしまう。それではいけない。国際・福祉都市を目指す一種の覚悟として、象徴的な意義がある。財政的に難しいといわれるが、岡山市が予算の無駄使いを改めれば、財政面で問題はない。国も予算をつけた。市長や市議会、市民の意識形成が課題だ」

―市と商工会議所とのパートナーシップについても触れている。

「提言だけに終わらせてはならない。そのためには両者の連携が大切。幸い、市と会議所とはコミュニケーションがよくとれている。さらに双方の幹部や担当者のレベルごとに定期的な懇談会などを持ちたい」

―市の財政問題も重視しているが。

「財政を無視すれば、路面電車などは絵に描いたモチになる。責任ある提言にするために、委員会の下部組織に財政問題研究会を設置した。PFI（民間資金活用による社会資本整備）や公設民営、民設公借といった発想の転換が必要だ。私が岡山市に提案した企業誘致のための用地リース方式は、現実に導入された。これまでは国の予算をいかに多く取ってくるかで、自治体が評価されていた。そのために財政規模が膨らみ、税金の無駄使いにつながっていたのだ。柔軟性のある民間サイドが財政問題に取り組む必要がある」

―ビジョンをどのように市民にアピールするか。

「今考えているところ。各まちづくり団体にも説明していきたい。大都市とは違い、地方都市では自分たちが手を伸ばせば街づくりに参画できる。その楽しさを市民にアピールしていきたい」

ok
LIVE NEW OFFICE
OKAYAMA KOKUYO
オフィスの新しい価値を創造します
(株)岡山コクヨ
岡山市古新田1-153番地
☎(086)282-2611